

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 14 No.6 2012年3月31日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ラドビジョンジャパン、H.264/SVC と H.264 ハイプロファイルに対応した最上位モデル 1080p60 ビデオ会議システムを発表

RADVISION Japan 株式会社(東京都台東区)は、ビデオ会議専用端末機「SCOPIA XT5000」を発表した。(3月14日)



SCOPIA XT5000 (ラドビジョンジャパン資料)

ラドビジョンでは、すでに「XT シリーズ」として「SCOPIA XT1000(スコーピア XT1000)」を販売してきたが、今回発表された製品はフラッグシップとして位置づけられる XT シリーズ最上位モデルとなる。

SCOPIA XT5000 は、従来標準的に対応してきた H.264/SVC に加えて、新たに H.264 ハイプロファイルにも対応した。「SVC とハイプロファイルの両方に対応したテレビ会議システムは当社が業界初めてとなる。」(ラドビジョンジャパン)

映像解像度は 1080p60fps に、音声は、CD 品質 20Khz に対応。デュアルストリーム(H.239)は映像もデータ共有も 1080p60fps で送受信する。「SCOPIA XT5000 は、当社が従来、インフラ制御機能で培った技術とアエスラの知的財産を買収したことによって取得した技術を融合させて開発した製品となる。映像については 2Mbps の帯域利用で 1080p60fps を実現。他社競合メーカーの同等製品に比べ 3 割安く価格を抑えたコストパフォーマンスの高い製品に仕上がった。」(ラドビジョンジャパン)

加えて、最大 9 地点同時接続可能な内蔵 MCU(オプション)、iPad や iPhone による操作機能(オプション)を提供。

SCOPIA XT5000 のユーザの操作画面については、XT1000 よりさらにシンプルに分かりやすくした。必要最小限に絞ったメニューを画面の前面に表示するようにユーザインターフェイスについて再設計を行っている。

また本体背面に十分な入出力端子やネットワーク端子、USB などを提供しながらも、コーデック本体の大きさを軽量小型化した。寸法は、29cm x 奥行き 16.5cm x 高さ 4cm。重量 2.4kg となっている。

「コーデック本体のデザインが XT1000 よりもさらに洗練され、他社同様の製品と比べても小型化を実現した。その大きさはカバンにも容易に入る大きさだ。」(ラドビジョンジャパン)

本体とセットになった HD カメラについては、解像度 1080p60fps、パンチルトズームに対応した光学 10 倍カメラを採用している。

一方、マイクについては、カスケードに対応した 3 方向マイクポッドを同梱。20KHz フルバンド音声に対応し、ビーム形成技術によって話者とバックグラウンドノイズを分離することでノイズのない高品質の音声を実現するという。G.719 音声にも対応する。

今後の製品ロードマップについては、2012 年第 3 四半期

から第 4 四半期にかけて、ネットワークパケット制御機能である「NetSense」の他、内蔵 MCU(XT Desktop ライセンスを含む)、ステレオ音声、新リモコンなどを追加する予定という。

ラドビジョンは、今年で創立 20 周年を迎えた。これまでインフラ制御装置専門で事業を行ってきた。今後、OEM 供給を主体とした事業から自社製品を主体とした事業への転換を図りながら、端末ラインナップを充実させていく考えだ。並行して社内体制については、技術志向であったこれまでのスタンスからこれからは営業を強化していく意向だ。

「当社ラドビジョンの開発者向けスタックは既存のテレビ会議メーカーなど映像ソリューションの開発者に広く採用されている。そのコア技術をベースに、端末事業を本格化させることで当社事業の可能性は広がっていくと信じている。近い将来、テレビ会議市場トップを目指す。」(ラドビジョン)

東通産業、ビデオ会議システム用アドレス帳ソフトウェア発売

東通産業株式会社(東京都港区)は、ビデオ会議システム用アドレス帳ソフトウェア「あどびら」を 2011 年 12 月 29 日に発売した。(発表:2011 年 12 月 29 日)

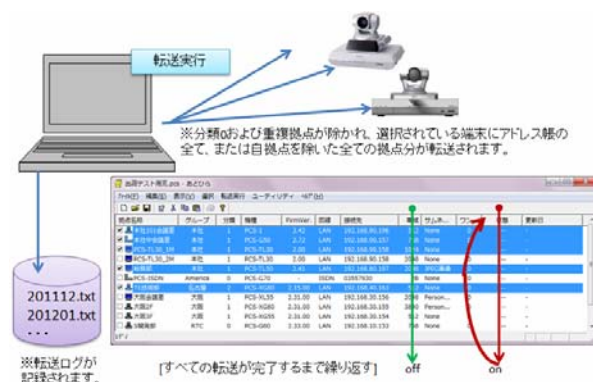
あどびらは、ソニービデオ会議システム PCS シリーズ用で、ビデオ会議システムで使用されるアドレス帳の利便性を高めるソフトウェア。

あどびらは、マスターのアドレス帳を各ビデオ会議端末に自動配布する機能をもっており、これにより、アドレス帳への登録・変更・削除といった手間や、また複数端末におけるアドレス帳の登録先の同期を自動で行えるようになっている。そのため、拠点によってアドレス帳のメンテがされていないといった問題や、システム管理者のタイムリーに管理したいといった要望に応えられると同社では説明する。

自動配布は、端末のステータスを確認して転送を行うようになっており、転送の方式には、プル方式もしくはプッシュ方式がある。プル方式は、SNMP を利用して、端末からのトラップ信号をきっかけに転送に入る方式。一方、プッシュ

方式は、端末に順次転送を行う方式となっている。

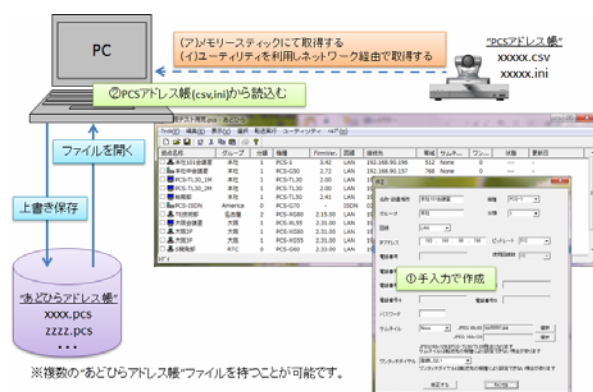
あどびらは、ステータスを確認して転送を開始するため、ユーザは、各端末の電源オンオフ状態などを気にする必要がない。加えて、ログにて転送状況の確認が可能となっている。なお、いずれの方式についてもビデオ会議通信中は転送を行わないように設定されている。



アドレス帳の転送方法例：選択された端末へアドレス帳ファイルを自動転送（東通産業 資料）

拠点名	グループ	機種	Firmware	接続先	電圧	サムネ	ワン...	状態	更新日
本社101会議室	本社	PCS-1	3.42	LAN	192.168.90.196	512	None	0	---
本社中会議室	本社	PCS-G50	2.72	LAN	192.168.90.157	768	None	0	---
PCS-TL30_1M	本社	PCS-TL30	2.00	LAN	192.168.90.158	1024	None	0	---
PCS-TL30_2M	本社	PCS-TL30	2.00	LAN	192.168.90.158	2048	None	0	---
総務部	本社	PCS-TL50	2.41	LAN	192.168.90.197	2048	個人用端末	0	---
PCS-1SDN	America	PCS-G70	--	ISDN	03557930	28	None	0	---
TE技術部	名古屋	PCS-XG80	2.15.00	LAN	192.168.40.163	512	None	0	---
大阪会議室	大阪	PCS-XL55	2.31.00	LAN	192.168.30.156	2048	Person...	0	---

アドレス帳例（東通産業 資料）



アドレス帳作成方法例（東通産業 資料）

あどびらに対応しているアドレス帳データは、PCS シリーズのアドレス帳フォーマットである csv,ini に準拠しており、そのため PCS シリーズ端末に保存されているアドレス帳の読み込みを行うことが可能となっている。またユーザが作成したサムネイル画の登録に対応している。サムネイル画には、拠点

名や色分けをすることができるため、視認性が向上し、アドレス帳が使いやすくなるという。

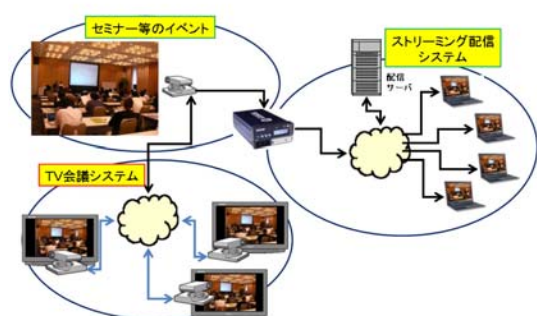
あどびらの価格は、オープン価格。初年度は年間保守が含まれている。ただし2年以降は別途契約を行う必要がある。保守は、ヘルプデスクサービス、バージョンアップソフトウェアの無償提供。

またあどびらは、端末管理台数に応じて、3種類の商品を提供している。最大管理端末台数が25台の「DSS-M025」、同50台の「DSS-M050」、同100台の「DSS-M100」。100台を越える場合は別途問い合わせ要。登録できる最大のアドレス帳件数はビデオ会議端末の仕様に準じる。

ネットウエル、エンコーダとテレビ会議システムを組み合わせたソリューションなど強化、1Uサイズで8入力同時処理可能アプライアンス・エンコーダ発表

「最近、大学や研究所、自治体、あるいは、一般企業などにおいて、アプライアンス・エンコーダとテレビ会議システムを組み合わせたソリューションへの要望が増えてきた。テレビ会議、遠隔授業やセミナー、トレーニング、あるいは、議会、入学式・卒業式など各イベントの中継を、PCやスマートフォン、タブレットなどにリアルタイムで映像配信するためだ。」(ネットウエル)

TV会議システムとNiagaraとの組み合わせ



(ネットウエル資料)

株式会社ネットウエル(東京都新宿区)は、米 ViewCast 社(1994年設立、本社:米国テキサス州)のエンコーダ

「Niagara シリーズ」の日本総代理店(2004年以降)。以来、ライブストリーミング用「Osprey ビデオキャプチャーカードシリーズ」やアプライアンス・エンコーダ「Niagara シリーズ」の日本での販売を手がけてきた。

「なぜエンコーダが必要か。たとえば、テレビ会議をビデオに録画して、あとから見るという方法が一番簡単だが、そのビデオをどのような方法で配布するのかという問題が残る。やはり一番便利なのは会議の内容をリアルタイムで社内ネットワークあるいはインターネットを通じて映像配信することだと考える。」(ネットウエル)

エンコード処理は、映像配信システムにおいては、配信用映像データ(Windows Media や Flash 形式データなど)を作成する鍵になる部分だ。

従来その処理はPCで広く行われてきた。しかし、そのハンドリングには一定のレベルの知識やスキルが要求され、映像配信への敷居を高くしていた大きな要因のひとつであった。そこでエンコード処理については、ビデオキャプチャーカードで行う方法から、機能をコンパクトにまとめたアプライアンス・エンコーダ製品で行う方法に進化してきた経緯がある。

「アプライアンス化することでエンコード処理がビデオ録画のボタンを押すように簡単に行えるようになった。また一方で、アプライアンス・エンコーダは汎用型であるため、テレビ会議システム用途以外でも幅広い使い方ができるのが大きな特長だ。」(ネットウエル)

ネットウエルでは、Niagara シリーズ製品である、SD 入力対応の「Niagara 2100/2120」やHD入力対応の「Niagara 4100」に加えて、ハイエンドのアプライアンス・エンコーダ「Niagara 9100」の販売開始を発表(2012年1月25日)した。



Niagara 2120

Niagara 2100

(*Niagara 2120 と Niagara 2100 との区別は、センターラインの色とモデル名によって判別、寸法:高5cm x 幅19cm x 奥行29.9cm) (ネットウエル資料)



Niagara 4100(寸法 : 高 11.43cm x 幅 20.32cm x 奥行 30.48cm) (ネットウエル資料)



Niagara9100(Niagara 9100-2D と Niagara 9100-8A の区別は、フロント側では判断できない。寸法:1RU x 幅 43.2.32cm x 奥行 65cm)

Niagara9100 は、Niagara 2100/2120 や Niagara 4100 と異なり、複数の映像ソースを複数の異なる映像フォーマットに同時にエンコード処理できる「サイマルストリーム」や、変動するネットワークの状況に応じて柔軟に配信処理するための「アダプティブストリーム」に対応している。

加えて、Niagara シリーズに共通の簡単操作のインターフェイスを搭載し、エンコードはボタンを押すだけで開始できるようになっている。さらに、データセンターなどでの設置を想定して、リモートアクセス機能にも対応している。

Niagara9100 は、2 製品を提供する。ひとつは、フル HD (2ch) に対応した「Niagara9100-2D」、そしてもうひとつは、アナログ(8ch)に対応した「Niagara9100-8A」。

処理能力については、Niagara9100-2D は Niagara4100 の 2 個分、また、Niagara9100-8A は、Niagara2100 の 8 個分相当となっている。

「Niagara9100 は 1U タイプ。複数の映像ソースチャンネルを同時に処理することでチャンネル当たりのコストを下げるとともに、設置スペースの大幅削減も可能だ。」(ネットウエル)

今後については、CDN(Contents Delivery Network)と言われる映像配信事業者と組み、映像配信用サーバーの提供や作成したコンテンツの管理等、映像配信に必要な機

能をワンパッケージで提供できるシステムを計画しているという。

「Niagara シリーズのユーザは、映像配信を従来型のエンコーダで行ってきた経験があり、簡単操作になった利点だけが注目を浴びているところがある。一方で、映像配信の経験のないユーザにとってアプライアンス・エンコーダの利便性に対する理解が浸透していないところがあるため CDN 事業者と組んだワンパッケージでの展開をこれから行っていく考えだ。」(ネットウエル)

ネットウエルは、2000 年 6 月設立。社員数は、26 名(2008 年 1 月)。本社は東京。大阪営業所がある。映像配信ソリューションの販売(ビデオネットワークソリューション営業部)の他、企業向けネットビジネスの支援、医療向けの遺伝子解析用ソフトなど基礎研究から創薬開発に至るまでの必要不可欠な情報とソリューションの提供、そして、RF マイクロウェーブ・高周波数・マイクロ波・ミリ波帯などの関連用部品・モジュール・サブシステムの輸入販売の事業を展開している。また並行して新規事業開発やアライアンス展開も積極的に行っている。

NTT アイティ、スマートデバイス向け Web 会議クライアントを新発売

NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、スマートデバイス向け Web 会議クライアント「ミーティングプラザ モバイル」を開発、3 月 10 日より ASP サービスでの標準提供を開始と発表。(2 月 28 日)

参加者映像表示 共有資料表示



(ピンチ操作等が可能)

スマートフォン(NTT アイティ 資料)

ミーティングプラザ モバイルは、「ミーティングプラザ」Web 会議に参加するための Android 端末用クライアント。PC のクライアントと同様にスマートデバイス

を利用して、音声、映像、資料共有の Web 会議が行える。



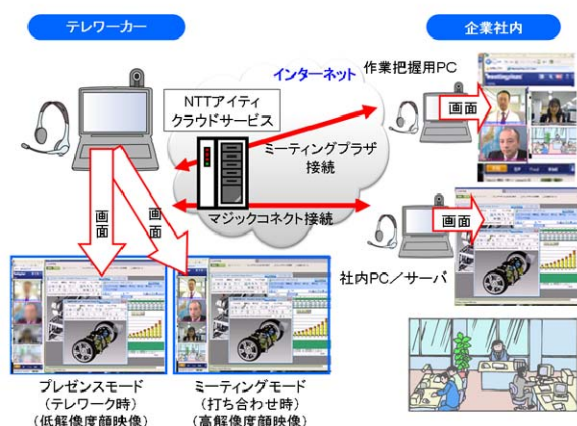
(ピンチ操作等が可能)

タブレット (NTT アイティ 資料)

特長としては以下の通り。

(1) 電話機能がないタブレット端末などでも、PC と同じようにインターネットを利用してミーティングプラザ会議に参加できる。(2) PC から参加する場合と同じく最大 32 拠点までの顔映像表示を実現した。(3) PC で行われていた共有資料の表示が、スマートデバイスでも実現できるようになった。iPhone や iPad については、IP 電話を利用して音声を通話料無料で使用できるとともに、今回から共有資料の表示ができるようになった。(4) クリアな音声でのコミュニケーションが可能にする雑音除去(ノイズリダクション)技術や IP 通信でのパケットロスによる音切れなどの問題が最小限になるように制御している。

ワイズスタッフと NTT アイティ、「スマートテレワーク + IT お手伝いサービス」、テレワークの一層の拡大を目指す



利用イメージ (NTT アイティ 資料)

株式会社ワイズスタッフ(奈良県生駒市)と NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、会社内のさまざまな IT 業務を時間単位で手軽に在宅ワーカーにアウトソーシングできる

スマートテレワーク+IT お手伝いサービスを 2 月 21 日より開始すると発表。(2 月 20 日)

ワイズスタッフは、北海道と奈良にオフィスを持ち、14 年間テレワーク(在宅就業)を実施してきた企業。全国 150 名の在宅型テレワーカーを擁す。ワイズスタッフは、「IT お手伝いサービス」によって、企業における小規模な IT 業務アウトソーシングを受注してきたが、今回 NTT アイティと協業することで、「どんな人がいつ作業をしているかがわからない」といった発注企業の不安の解消、業務内容の打合せの簡易化、および時間単位で業務を委託したいなどのニーズへの対応が可能になると考えている。これによりテレワークの一層の拡大を目指す。

今回の協業では、在宅型テレワーカーの管理・教育は、ワイズスタッフが担当する。一方、NTT アイティでは、ミーティングプラザとマジックコネクトのクラウドサービスで提供する。在宅テレワーカーへのアウトソーシング時の作業状況把握とセキュリティの確保については、NTT アイティの Web 会議「ミーティングプラザ」を利用して映像で確認を行う。具体的には、作業をしている様子の確認や映像の録画、そして作業内容の説明や質疑応答などでは Web 会議の資料共有を活用する。加えて、ユビキタスリモートアクセス「マジックコネクト」を利用して社内の PC/サーバーで安全に実施することで実現する。

キヤノンソフト情報システムの Web 会議システム、Android 端末に対応



IC³アンドロイド端末画面イメージ(キヤノンソフト情報システム資料)

キヤノンソフト情報システム株式会社(大阪市中央区)は、同社の Web 会議システム「IC³(アイシーキューブ)」(2005 年

から販売)の新版「Ver.8.01」を発表した。(3月1日)

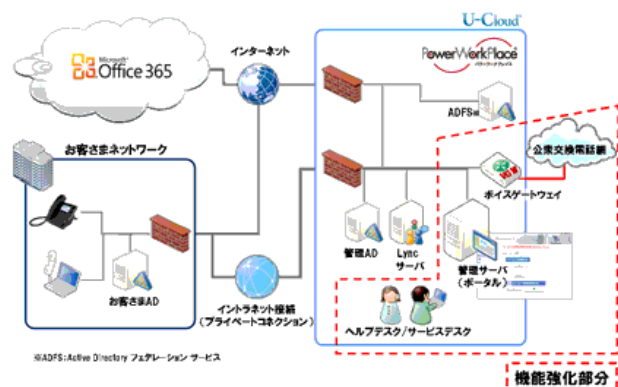
今回の新版は、サーバー導入型(オンプレミス型)が対象で、主な特長は以下の通り。(1)Android 対応(Android 2.3.1以降に対応)。(2)H.264AVCに対応。(3)アプリケーション共有機能の改善。64bit アプリケーションの共有、描画速度の向上。(4)音声ミキシング機能による通信データ量の削減。なお、この機能を利用する場合は、オプション製品「IC3 extension Video Codec」が必要となる。

IC³の販売価格は、5拠点同時接続ライセンス付きで950,000円(税別、以下同)。また追加同時接続ライセンスについては、5拠点追加が300,000円、10拠点追加が500,000円、50拠点追加が200万円。加えて、IC³ extension Video Codecについては、1クライアント毎に2,000円となる。

キヤノンソフト情報システムは、企業のIT部門や総務・企画部門、SIベンダーなどを対象に販売。本年度、Web会議システム事業関連において売上4億円を目指す。

日本ユニシス、クラウド型サービスの機能強化

日本ユニシス株式会社(東京都江東区)は、クラウド型サービス「PWP オンライン UC サービス」の機能強化を行い3月14日から提供開始した。(3月14日)



PWP オンライン UC サービス 電話機能補完・運用サポートサービス 概要図(日本ユニシス 資料)

PWP オンライン UC サービスは、2009年5月から提供している「いつでもどこでもコミュニケーション」サービスのひとつ。インターネットに接続できるPCがあれば、遠隔地間の社員および職員同士のコミュニケーションを実現する。

PWP オンライン UC サービスの機能強化した点は下記の通り。なお、(1)と(2)については、商用サービスとして日本初となっているという。

(1)「Microsoft Lync Onlineの電話機能補完。日本マイクロソフトが提供する「Office 365」の「Lync Online」(プレゼンス、インスタントメッセージ、オンライン会議、資料共有)では、電話機能を利用することができなかったが、今回のPWP オンライン UC サービスの機能強化によって、Office 365のLync Onlineに対して電話機能を追加する。

(2)マルチテナントユーザー向け音声通話機能を提供。PWP オンライン UC サービスの専有型サービスでは、すでに電話機能は提供されているが、この度マルチテナント型サービスにおいても、外線通話機能を追加できるようになった。

(3)運用サポートサービスを強化。問い合わせ窓口は、システム管理部門向けの「サービスデスク」と一般ユーザー向けの「ヘルプデスク」の2つを用意。メールまたは電話で最大24時間365日対応。また運用管理ポータルは、運用管理者が、「サービス状況確認」、「ユーザー登録・変更(個別/一括)」をポータル画面より実施できる。

日本ユニシスは、今回の機能強化を皮切りに、コミュニケーション/コラボレーション領域のサービス・商品の連携を拡充していく意向だ。

ビジネス動向-国内

ポリコム、アライドテレシスを日本市場の新たな販売代理店として発表

ポリコムアジアパシフィック社は、アライドテレシス株式会社(東京都品川区)を日本市場へ向けた新たな販売代理店として発表した。(3月7日)

アライドテレシスグループは、IPトリプルプレイ分野に強みを持ち、世界23カ国に展開するネットワーク関連の機器メーカーあるいはソリューションプロバイダー。

今回販売代理店になることで、自社のネットワークインフラストラクチャソリューションと「Polycom RealPresence ルームソリューション」を共にワンストップで提供する。

日立製作所、テレビ会議システムの残響低減技術を開発

株式会社日立製作所(東京都千代田区)は、聞き取りやすい音質でテレビ会議が行える音声処理技術を開発したと発表。(3月13日)

今回発表したのは、テレビ会議を行っている際の室内の天井や壁、設備などに反射して生じる残響を大幅に低減する音声処理技術。アレイ型マイク1台とPCを会議室に設置するだけで実現する技術という。実験においては、最大30名程度の参加が可能な約50m²の会議室において、音源がアレイ型マイクから4m程度の場所にある状況下で残響成分を9分の1に低減可能であることを確認した。

これまでの技術は、残響がマイクに到達する時間と音量(残響パターン)が一定であるとの仮定に基づいて残響成分を推定し除去していた。しかし、実際には発話者の位置や顔の向きが少しでも変化すると残響のパターンは変動するため、残響を高精度に除去することが難しいという課題があった。

音声がどちらの方向から到達したかを推定することができるアレイ型マイクを用いて収録した、過去5秒間の音声に対して、直接届いた音声と異なる方向から遅れて届く残響音の分離処理を行う。

次に、その分離された残響音から、残響音声の到達時間や音量がどのくらい変動するかを求め、この変動量も考慮した残響の発生パターンを推定する。

さらに、その推定された残響発生パターンに基づき、入力された音声に対して、残響成分の音量を推定。聞きたい音声の音量とのバランスを考慮した残響成分を高精度にリアルタイム除去する。

なお、これらの処理には、EM(Expectation Maximization)アルゴリズムと呼ばれる計算手法を適用しているという。

製品・サービス動向-海外

Arkadin 社、SaaS 型オールイン遠隔会議ワンソリューションの提供開始

Arkadin 社は、「Arkadin Oneplace(アルカディン・ワンプレイス)」を発表した。(2月9日)

Arkadin Oneplace は、米アドビシステムズ社の「Adobe Connect」をベースとしたオールインワンソリューションでサービスとして提供するもの。小規模のグループ会議から大規模会議まで対応する。

Arkadin Oneplace の特長は、以下の通り。(1)ひとつの会議室の中で一般電話とIP回線の混在使用が可能。(2)高解像度のビデオによる100地点の会議が可能。(3)ウェブコンテンツ、レイアウト変更、録画、投票、Q&Aに対応。(4)各種モバイル端末(multiple mobility devices)による会議に対応。(5)顧客毎の専属担当者の配置、トレーニング、24時間のローカル言語によるアシスタンス。

Arkadin 社は、SaaS モデルでビジネスソリューションを提供する。14,000の法人顧客。2001年設立。28カ国に49のオペレーティングセンターを持つ。日本については、現地法人アルカディン・ジャパン株式会社(東京都港区)を2004年に設立。また2011年には関西営業所を開設。

Konftel社、bluetooth などを通じた多様なデバイスを接続できるマイクスピーカを発表



Konftel55 シリーズ (Konftel 社資料)

スウェーデンの Konftel(コンフトел)社は、オフィスや会議室での使用を想定したマイクスピーカ「Konftel55」と「Konftel55W」を発表した。(3月6日)

コンピュータ、タブレット、デスクトップフォン、モバイルフォンなどを接続して高品質な音声会議を行える。たとえば、コン

コンピュータについては、USB や Bluetooth (Konftel55W のみ) を通じて接続。Skype やマイクロソフト Lync の通話が行える。加えて会議の録音 (メモリーカード使用) やバッテリー駆動も可能 (Konftel55W のみ)。

Konftel55 と Konftel55W 本体に内蔵のマイクには、360 度の無指向性マイク (約 3m) を搭載。マイクの拡張については、Konftel55W のみ行えるようになっている。エコーキャンセラー、バックグラウンドノイズサプレッションなどに加え同社の「OmniSound HD」技術によって、HD 音質が実現しているという。

また本体前面には、LCD タッチパネルがあり、この LCD は現在の接続方法を表示したり、会議の開始、あるいは、一般的な設定、たとえば、リングトーンや言語などの設定も行えるようになっている。

ビジネス動向-海外

ポリコム社、CFO Mike Kourey 氏辞任、Eric Brown 氏が CFO、COO に就任

米ポリコム社は、同社 (1990 年 12 月設立) の 7 番目の従業員であり 20 年間社に貢献してきた Mike Kourey 氏が、エグゼクティブ バイス プレジデント兼最高財務責任者 (CFO) を辞任すると発表。同時に、Eric Brown 氏が、最高財務責任者 (CFO) 兼、最高業務責任者、兼エグゼクティブ バイス プレジデントに任命 (2 月 21 日) された。

Mike Kourey 氏は、3 月 7 日まで従業員として留まり、その後は 5 月 7 日までアドバイザーをつとめ円滑な引き継ぎを行う。

Eric Brown 氏 (46 歳) は、ポリコム社の財務、オペレーション、IT 部門を統括し、CEO Andy Miller 氏に報告する。前職は、Electronic Arts 社、McAfee 社、MicroStrategy 社、DataSaga 社などで主に財務やオペレーションを経験してきた実績がある。

Arkadin 社、クラウドサービスのプラットフォームに Radisys 社メディアサーバーを採用

米 Radisys 社は、フランスの Arkadin 社が、Radisys 社のメディアサーバー「CMS-9000」を採用したと発表した。

Arkadin 社は、音声、ビデオ、データーを統合したクラウドサービスを提供する上で、そのプラットフォームに Radisys 社の CMS-9000 を導入。この CMS-9000 を世界 4 大陸 6 都市に設置し、Arkadin 社のグローバル IP ネットワークで接続する。クラウドサービスは SIP をベースとしたサービスとなり、Media Server Markup Language (MSML) を特長とする。

当初は、「CMS-3000 メディアサーバー」での展開を想定したが最終的にはよりスケラブルで大きなキャパシティを持つ CMS-9000 の採用で決定した。

Connexus 社、米 Vidyo 社の技術をベースにした VaaS サービスを発表

米 Connexus 社 (ダラス市) は、米 Vidyo 社の技術をベースにした VaaS (Videoconferencing as a Service) サービス「Connexus-on-Demand」を発表した。(2 月 29 日)

Connexus 社は、1989 年設立の非公開企業。以来テレビ会議専門のサービスを展開。テレビ会議室レンタル、多地点接続装置運営サポート、会議予約サービス、コンサルティングおよびトレーニングを提供している。

Connexus-on-Demand は、同社のポータルサービスと組み合わせ、サービスプロバイダー、リセラー、あるいはユーザ向けに提供するが、「Connexus-on-Demand Application Pricing Portal (APP)」によって 1 ユーザあたり 5 ドルという低コストでサービスが利用できるようになっているという。

すでにこのサービスは、オーストラリア、フランス、ドイツ、中国、日本、南アフリカ、カナダ、ベルギー、ラテンアメリカ、イギリスなどで設置もしくは接続検証が行われていると同社では説明する。

Whygo 社と myVRM 社、会議室予約サービスで戦略的なパートナーシップを締結

米 Whygo 社と米 myVRM 社は、会議室予約サービスで戦略的なパートナーシップを締結したと発表。(2月27日)

世界3000箇所以上の貸し会議室の仲介サービスを行っている Whygo 社と、実際のミーティング (in-person) とテレビ会議と両方のスケジューリングを行うことができるソフトウェアを開発する myVRM 社が提携することで、貸し会議室などのパブリックなミーティングと社内などのプライベートなミーティングなどミーティングの効率化を図るソリューションを提供する。

このソリューションを利用するユーザは、マイクロソフト アウトルックのプラグインをまずダウンロード。プライベートミーティング用の会議室を登録することで、貸し会議室の空き状況や招待者の参加可否状況の確認も含めたミーティングのスケジュールが行えるようになる。

Quanta Computer 社、ラドビジョンの BEEHD を採用

ラドビジョンジャパン株式会社(東京都台東区)は、Quanta Computer 社が、ラドビジョンのビデオコミュニケーション技術「BEEHD」を採用したと発表。(2月27日)

Quanta Computer 社は、ノートブック PC 製造会社で世界最大の独自デザインメーカー (ODM)。BEEHD は、開発者向けのツールキット。Quanta Computer 社の UC アプリケーション「LiveHD」開発に採用された。LiveHD は、ノートパソコン用の「LiveHD for PCs」とタブレット用の「LiveHD for Tablets」に同梱される。

LiveHD for PC については、H.264 エンコードの内部処理を行う内蔵カメラを搭載。PC の CPU から処理負荷を軽減する特長がある。一方、LiveHD for Tablets は、Texas Instruments 社の OMAP4 プロセッサを採用。このプロセッサもビデオエンコードとデコード処理をオフロードすることができるため、HD モバイルビデオ会議の 720p/30fps の画質を劣化させることはないという。また通信は、H.323

や SIP、そして画像圧縮は H.264/SVC、QoS の部分については「NetSense」にも対応する。

ポリコム社 Polycom RealPresence、「IBM Sametime」最新版にネイティブ対応

米ポリコム社は、ソーシャルビジネス戦略の一環としての製品アップデートを IBM Lotusphere 2012 会場にて発表した。(発表:米1月16日、日本2月8日)

今回の発表は、ポリコム社の「Polycom RealPresence ビデオソリューション」が最新版の「IBM Sametime」や「IBM Connection」にネイティブで対応するという内容。

ソーシャルビジネス戦略の背景には、社会の人々が何かを共有したり、お互いにつながりをもったりする際にソーシャルメディアがもっとも重要なツールになってきているという現状がある。そういった中では、オフィスからでも、自宅からでも、あるいは出張先や旅先などからどこからでも、Sametime や Connections から簡単にビデオコールできることが重要になってくると同社では見る。

両者がネイティブに統合することで、ブラウザーベースのクライアントは、ソーシャルメディアポータルから、インスタントメッセージングをするように簡単に音声あるいはビデオを開始することができる。加えて、ミーティングのビデオ会議専用端末からテレプレゼンスやタブレットビデオ会議までコールが行える。

ポリコム社によると、この統合によるソリューションはすでに某国の国勢調査局や、民間の調査会社などで稼働しているという。またヘルスケア向けのソリューションも提供されている。

市場動向-海外

IDC 社、2011 年エンタープライズテレビ会議市場の規模を発表

米調査会社 IDC 社は、「Worldwide Enterprise Videoconferencing and Telepresence Overview」を発表。(2月28日)

このレポートによると、2011年エンタープライズテレビ会議市場の規模は、27億ドルとなった。

端末セグメントについて。2011年第四半期は、対前年四半期に比べ19%増加。また2011年通年では8億790万ドルに達した。これは対前年比で24.6%成長となる。端末市場の中で、とりわけシングルコーデックの需要が伸び、対前年比で38.7%を記録。4億4410万ドル(55%)となった。

ビデオインフラ装置(MCUやゲートウェイ、サーバーなど)セグメント。2011年第四四半期は、対前年四半期に比べ18.4%増加。また2011年通年では7億1630万ドル市場規模へ成長した。対前年比で22.5%増となった。

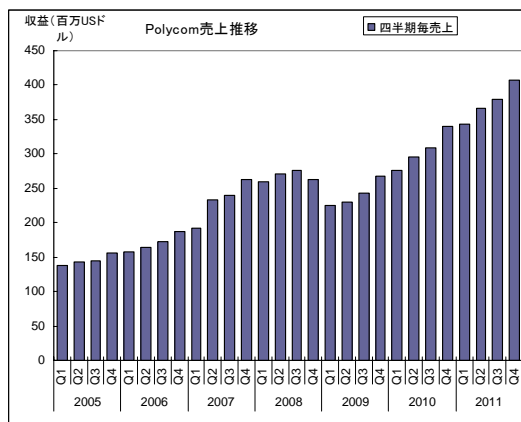
2011年イマーシブテレプレゼンスセグメントについては、3億1480万ドル。2010年から21.6%減少となった。

IDC <http://www.idc.com/>

決算発表-海外

2011年第4四半期(2011年10月-12月)

米ポリコム社



米ポリコム社の発表によると、2011年第4四半期の売上高は、4億700万ドルを達成。2010年第4四半期から20%増。また通年では、2010年の12億ドルから2011年は15億ドルの過去最高を記録。

地域毎(第4四半期ベース)の売上高構成では、北米が48%、欧州・中東・アフリカが27%。アジア太平洋地域が25%。

一方、第四四半期の営業キャッシュフローは1億2200

万ドル。2011年の残高は5億9200万ドル。無借金経営。

今四半期の主な動きとしては、以下の通り。(1)欧州とアジア太平洋地域の売上が対前年比で40%増加。(2)北米担当の幹部の新たな任用。(3)「Polycom RealPresence Platform」の売上が対前年比で45%増加。(4)ViVu社の買収。ビデオコラボレーションソフトウェアを開発する企業。ポリコム社のクラウド&ソフトウェア戦略を後押し。(5)「iPad2」やアンドロイド端末対応の「Polycom RealPresence Mobile」ソフトウェアを発表。(6)マイクロソフト社「Lync」とポリコム社「Polycom CX7000」との統合を強化。

セミナー・展示会情報

*下記リンクからご覧ください。

<国内>

<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

<海外>

<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

▼今回の定期レポートでも取り上げましたが、ラドビジョンが1080pの解像度に対して60フレーム/秒の製品を発表しました(これまでは30フレーム/秒)。先日同社のセミナーで拝見しましたが、テレビ会議のローカル映像を見ているような印象でした。またXT5000本体はビジネスバックにも簡単に入るくらい小型化されていました。90年代のISDNテレビ会議を思い起こすと、隔世の感があります。

▼そのラドビジョンは、3月15日、アバイアによって、2億3000万ドルで買収されるという発表(3月15日)。これはやはり業界において注目されたニュースじゃないでしょうか。これは次号でレポートします。

▼またライフサイズの前CEO Craig Malloy氏は、今度は設立2年経ったBloomfire社(ソルトレーク市)というベンチャーCEOに就任。ウェブベースのソーシャルラーニングアプリケーションを開発する企業とのこと。Bloomfire社は、1000万ドルをベンチャーキャピタルから最初の出資(first round)を受けた。米海軍の経歴から転じてVTEL、ViaVideo、Polycom、LifeSize(VCより8100万ドルの投資を受けた)と実績を積み、50歳でまたあらたにベンチャーに挑戦されます。

▼今回初めてネットウエルを取材しました。ViewCastのエンコーダを国内販売されていますが、エンコーダとテレビ会議が組み合わさる事例が増えているようで、そういった観点から今回定期レポートで取り上げさせていただきました。

▼Web会議ベンダーの間では、引き続きiOSやAndroid対応が広がっているようですね。

次号もよろしくお願ひ致します。

橋本 啓介